

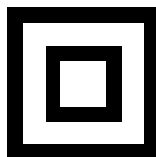
日立タツカ

N 1904

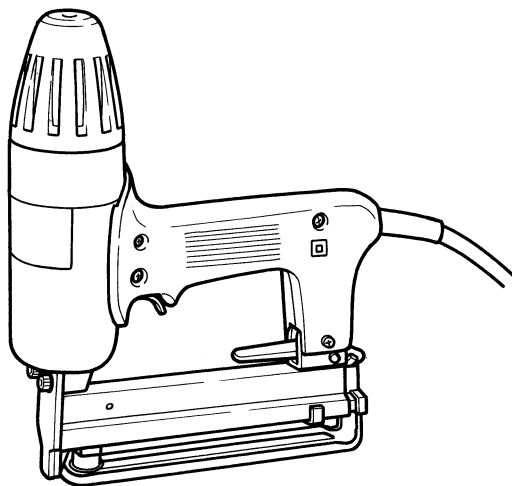
N 1910

取扱説明書

このたびは日立タツカをお買い上げいただき、
ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、
正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に
大切に保管してご利用ください。



二重絶縁

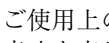
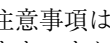




N 1910

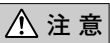
目 次

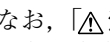
	ページ
電動工具の安全上のご注意	2
タッカの使用上のご注意	5
各部の名称	9
仕 様	9
ステーブルの選び方	10
用 途	10
作業前の準備	11
ご使用前に	12
使 い 方	13
保守・点検	16
ご修理のときは	16
全国営業拠点	裏表紙


警告， 注意， 注 の意味について

ご使用上の注意事項は「 警告」と「 注意」に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。また、「 注」の意味も説明します。

 **警告**： 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

 **注意**： 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、「 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

 **注**： 製品の据付け，操作，メンテナンスに関する重要なご注意。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

警 告

- ① 作業場は、いつもきれいに保ってください。
 - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② 作業場の周囲状況も考慮してください。
 - 電動工具は、雨中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ 感電に注意してください。
 - 電動工具を使用中、身体を、アース(接地)されているものに接触させないようにしてください。
(例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠)
- ④ 子供を近づけないでください。
 - 作業者以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業者以外、作業場へ近づけないでください。
- ⑤ 使用しない場合は、きちんと保管してください。
 - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または錠のかかる所に保管してください。
- ⑥ 無理して使用しないでください。
 - 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ 作業に合った電動工具を使用してください。
 - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行なう作業には使用しないでください。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ きちんとした服装で作業してください。
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
 - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

 **警 告**

- ⑨ 保護メガネを使用してください。
 - 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ 防音保護具を着用してください。
 - 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ コードを乱暴に扱わないでください。
 - コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- ⑫ 無理な姿勢で作業をしないでください。
 - 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑬ 電動工具は、注意深く手入れをしてください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
 - 継ぎ(延長)コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑭ 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いてください。
 - 使用しない、または、修理する場合。
 - 刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
- ⑮ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。
 - 電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- ⑯ 不意な始動は避けてください。
 - 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
 - さし込みプラグを電源に差し込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ⑰ 屋外使用に合った継ぎ(延長)コードを使用してください。
 - 屋外で使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルの継ぎ(延長)コードを使用してください。

⚠ 警 告

⑱ 油断しないで十分注意して作業を行なってください。

- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑲ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締め付け状態、部品の破損、取り付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。

⑳ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

- この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

㉑ 電動工具の修理は、専門店に依頼してください。

- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターにお申し付けください。
修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。

□ 二重絶縁について

電気が流れる導体部と人の触れる外枠部の間が、二つの絶縁物で二重に絶縁されている電動工具であり、この製品には“□”マークを表示しています。

二重絶縁工具は、感電に対し安全性が高められています。

異なった部品と交換したり、間違っ組立てたりすると、二重絶縁構造ではなくなり、安全でなくなる場合があります。

電気系統の分解・組立や部品の交換・修理は、お買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターにご用命ください。

タッカの使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、タッカとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警 告

- ① 本機は引金を引くだけでステープルが発射します。ステープルを打つとき以外は、引金に触れないでください。

誤ってステープルが発射すると、けがの原因になります。

- ② 保護メガネを使用してください。

- 作業中は、保護メガネを使用してください。
- まわりの人にも保護メガネをかけさせてください。

ステープルを連結している接着剤や打ち損じのステープルが目にあたると、けがの原因になります。

- ③ 作業環境に応じてヘルメット、安全靴などの防具を着用してください。

- ④ エンジン発電機および直流電源では、使用しないでください。

エンジン発電機および直流電源に接続すると制御回路が故障し、ステープルが発射した場合、けがの原因になります。

- ⑤ 昇圧器などのトランス類は、使用しないでください。

制御回路が故障し、ステープルが発射した場合、けがの原因になります。

- ⑥ さし込みプラグを電源にさし込む前に、次の点検をしてください。

- ネジ類の締め付けがゆるんでいないこと。
- 損傷したり、はずれている部品がないこと。
- さび付きなどで、正常に動作しない部品がないこと。

- ⑦ さし込みプラグを電源にさし込むときは、次のことに注意してください。

- 引金に手を触れない。
- 射出口を人体に向けない。

誤ってステープルが発射した場合、けがの原因になります。

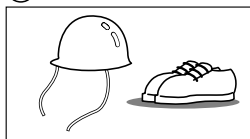
①



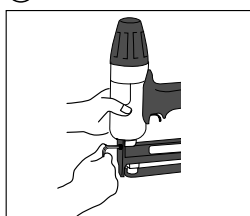
②



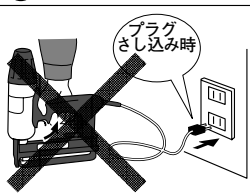
③



⑥



⑦



⚠ 警告

- ⑧ ステープルを装てんする前に、さし込みプラグを電源にさし込んで、次の点検をしてください。

- さし込みプラグを電源にさし込んだだけで、機体内部のプランジャなど作動音がしないこと。
- 異常音がしないこと。
異常のあるまま使用すると、事故やけがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

- ⑨ 用途にあった作業に使用してください。

- 本機は、木材または類似の材料へのステープル打ち作業を目的とした工具です。
- 指定された用途以外には使用しないでください。

- ⑩ 指定のステープルを使用してください。

指定されたステープル以外のものを使用すると、けがや本機の故障の原因になるので使用しないでください。

- ⑪ 作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

- ⑫ 人体に射出口を向けないでください。

人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。

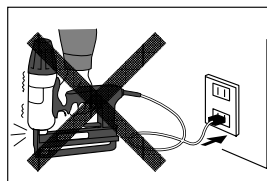
- ⑬ 射出口付近に人体や手、足などを近づけて作業しないでください。

誤ってステープルが発射したり、はね返って飛んだときなど、けがの原因になります。

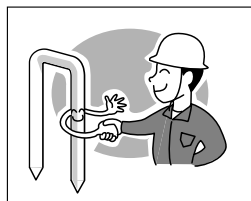
- ⑭ ステープルを打ち込むとき以外は、引金に指をかけないでください。

- 引金に指をかけて、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。
- ステープルを装てんするときや調整などをするときは、引金に指をかけないでください。
誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

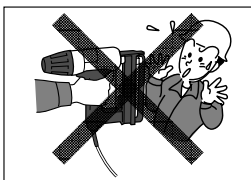
⑧



⑩



⑫



⑬



⑭

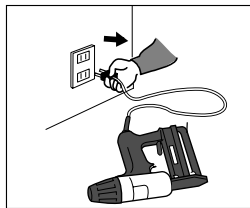


警告

⑮ 次の場合は、さし込みプラグを電源から抜いてください。

- 使用しない場合や作業中断時、使用後。
- 点検・修理・調整、ステープルづまりの直しなどの場合。
- ステープルを装てんする場合。
- タッカを移動する際や手渡しする場合。
誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

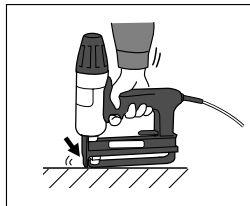
⑮



⑯ ステープルを打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。

- 一度打ったステープルの上に、再度ステープルを打つことはしないでください。
ステープルがはね返ったり、本機が反発することもあり、けがの原因になります。

⑯



⑰ 作業中はまわりの人に注意してください。

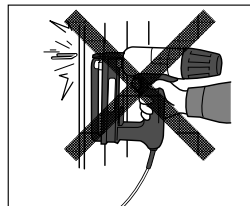
ステープルを連結している接着剤や打ち損じたステープルが当たる恐れがあり、けがの原因になります。

- 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。
機体や材料を落としたときなど、事故の原因になります。

⑱ 薄い板や木材の端にステープルを打たないでください。

薄い板に打つとステープルが突き抜けたり、木材の角に打つとステープルがそれたりして、けがの原因になります。

⑱



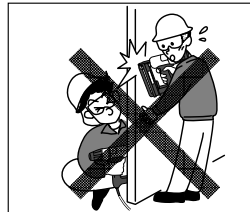
⑲ 機体の反発に注意してください。

- 硬い所に打った場合、本機がはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

⑲

⑳ 壁の両側から同時にステープル打ち作業をしないでください。

打ったステープルが突き抜けたり、壁ぎわのステープルがそれたりして、けがの原因になります。



⚠ 警告

⑳ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足元をしっかりとらせ、バランスを保つようにしてください。

転倒して、けがの原因になります。

- 高所作業のときは、ステーブル打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。

けがの原因になります。

㉑ 屋外での作業は、次のことに注意してください。

- 高所作業の場合、コードは作業場所の近くに固定してください。

不意にコードを引っ掛けたりした場合、けがの原因になります。

- 屋根などの斜面でステーブルを打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。

- 床などの水平面でステーブルを打つときは、前進しながら作業してください。後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。

- 壁などの垂直面にステーブルを打つときは、上から下へ作業してください。

㉒ 誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

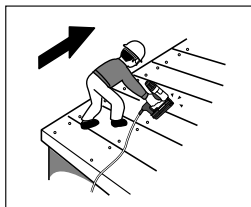
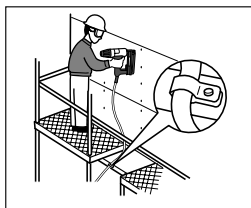
㉓ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常を感じたときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。

そのまま使用していると、けがの原因になります。

㉔ 作業後は、さし込みプラグを電源から抜いてから、ステーブルを全部抜き取ってください。ステーブルを残しておく、次に使用するときなど、誤って作動した場合に、けがの原因になります。

㉕ 部品をはずしたり、改造をしないでください。安全性が損なわれ、けがの原因になります。

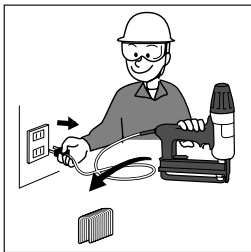
㉑



㉒



㉓



各部の名称

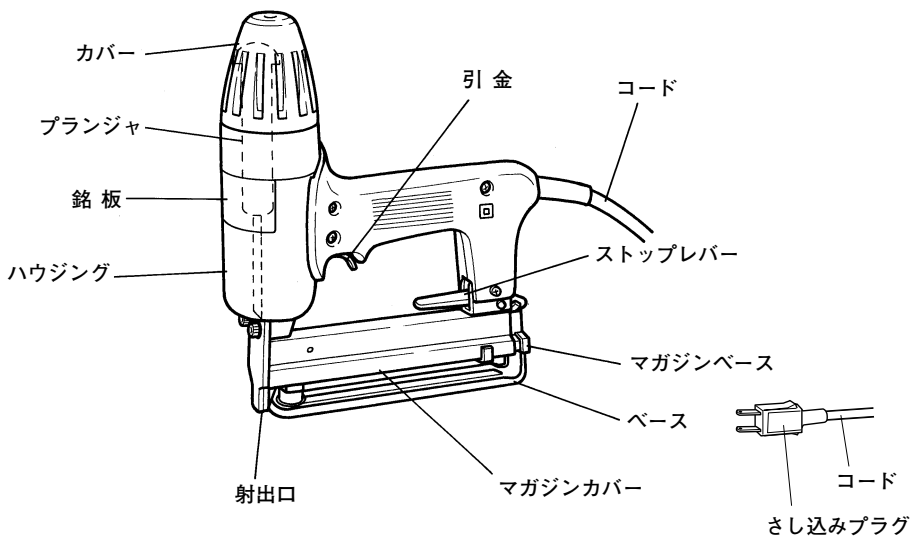


図 1

仕 様

使 用 電 源	単相交流 50 Hz または 60 Hz (共用ではありません)
	電 圧 100 V
定 格 打 込 速 度	毎秒 2 本連続 10 分 (最高毎秒 6 本)
ステーブル装てん数	110 本 (1 連 + 10 本)
コ ー ド	2 心キャブタイヤケーブル 10m
質 量	2.0 kg (コードを除く)

ステーブルの選び方

本機は、図2に示すステーブルが使用できます。

ステーブルは100本が1連に接着されています。寸法はおおよそその値を示しております。ステーブルは本タッカお買い上げの販売店でお求めください。

(寸法単位：mm)

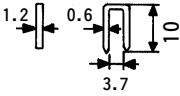



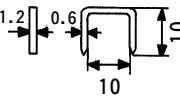



N 1904 用	呼び名	B 0410	B 0413	B 0416	B 0419
	形状				
N 1910 用	呼び名	B 1010	B 1013	B 1016	B 1019
	形状				

図 2

用 途

- 建具の製造
- ラス網止め
- 壁下石膏ボード打ち
- 建築，新建材の固定
- 内装物の固定
- 看板の組立，固定

作業前の準備

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

作業前に次の準備をすませてください。

1. ステープレの準備……………

ステープル打ち作業の用途にあったステープルを準備してください。

(10 ページ参照)

2. 継ぎ(延長)コード……………



警告

- 継ぎ(延長)コードは、損傷のないものを使用してください。

電源の位置がはなれていて継ぎコードが必要なときは、製品を最高の能率で故障なくご使用いただくため、電流を流すのに十分な太さのものをできるだけ短くしてご使用ください。

導体公称断面積	最大長さ
1.25 mm ²	15m
2 mm ²	30m
3 mm ²	45m

左の表は、使用できるコードの太さ(導体公称断面積)とその最大長さを示します。

3. 安全点検……………



警告

- 子供など作業員以外は近づけないでください。
- ネジ類の締め付けがゆるんでいないことを、十分に点検してください。
- 損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に動作しない部品がないことを点検してください。

16 ページの「保守・点検」を参照し、必ず行なってください。

ご使用前に



警告

- ご使用前に次のことを確認してください。1～2項については、さし込みプラグを電源にさし込む前に確認してください。
- 昇圧器などのトランス類は、使用しないでください。

1. 使用電源を確かめる……………

必ず銘板記載の電源でご使用ください。

本機は交流 100 V 専用ですので、直流電源、または交流 200 V 電源に接続しますと電気回路が故障しますので絶対に接続しないでください。

- 注** • 15A 以上のブレーカーやヒューズが設置されていることを、ご確認ください。

2. ステープルを入れる……………



警告

- ステープルを装てんする場合は、必ず引金から指をはなし、さし込みプラグを電源から抜いてください。

- ストップレバーをはずし、マガジンベースを後ろへ引き出します。
- ステープルをマガジンカバーの中に入れます。(図 3)
- マガジンベースを元通りに押し込みます。

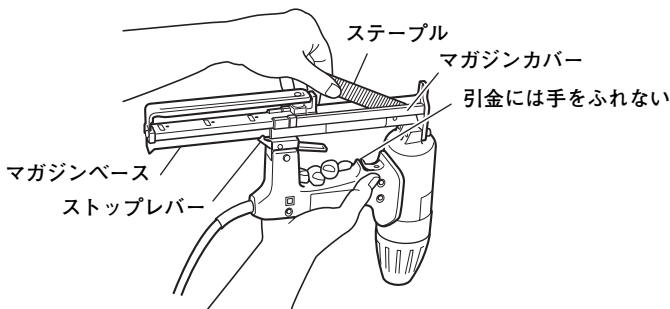


図 3

3. 電源コンセントの点検……………

さし込みプラグをさし込んだとき、ガタガタだったり、すぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。

そのままお使いになりますと、過熱して事故の原因になります。

使 方

⚠ 警 告

- 本機は引金を引くだけでステープルが発射します。ステープルを打つとき以外は、引金に触れないでください。
- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 作業中は、まわりの人の安全確保にも十分注意をはらってください。
- 人体に射出口を向けないでください。
- 射出口付近に人体や手、足などを近づけて作業しないでください。
- 一度打ったステープルの上に、再度ステープルを打つことはしないでください。

1. ステープルの打ち方……………

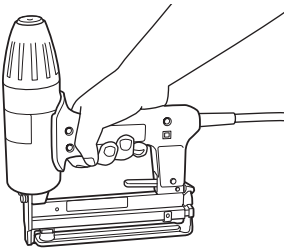


図 4

- 打ち込む所に射出口を押し当て、上から押し気味に引金を引きます。
引くと同時に一撃で打ち込めます。(図4)

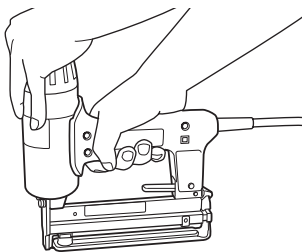


図 5

- 硬い材料に打ち込むときは、図5のようにタッカの頭を手でおさえ、打ち込む所に押しつけて打ちます。
- 材料がやわらかすぎてステープルが入りすぎる場合には、タッカを軽く持って打ち込みます。ステープルがめり込まないようにします。

注

● 空打ちの注意

- 連続してステープルを打っていると、ステープルがなくなったことに気がつかず、そのまま使用している場合があります。これを「空打ち」といい、空打ちを続けると各部に影響を与えますので、空打ちをしないようご注意ください。
- 早打ちは連続100本(ステープル1連)以内にとどめてください。
 - 連続してご使用になる場合は、1秒間に2本位の速さでご使用ください。

(1) 作業中断時、使用後のご注意

警告

- 使用しない場合や作業中断時、使用後はさし込みプラグを電源から抜いてください。
- 作業後は、さし込みプラグを電源から抜いてから、ステープルを全部抜き取ってください。

2. 打ち込み深さの調整……………

警告

- ベースの調整をするときは、必ず引金から指をはなし、さし込みプラグを電源から抜いてください。
- 射出口を下に向け、人体や手・足などがいないことを確認してください。

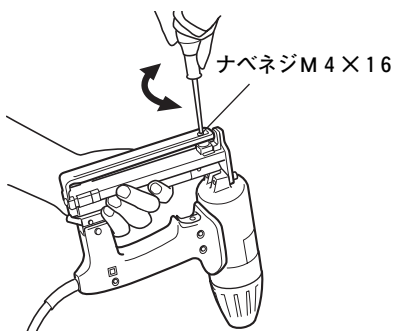


図 6

本機は、ベースを調整することにより、打ち込み深さを調整できます。

- ナベネジ M4 × 16 を回して、打ち込み深さが適当になるようにベース高さを調整します。ナベネジをゆるめるとステープルが浮く方向になります。(図 6, 図 7)

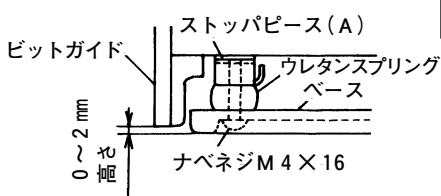


図 7

- 注** • ベースの高さは、ナベネジ M4 × 16 により 0 ~ 2 mm の範囲内で調整してください。高さを 0 以下にすると、ウレタンスプリングが破損することがあります。また 2 mm 以上にすると、ステープルが曲がって打たれる場合があります。(図 7)

3. ベースを取りはずしてご使用になる場合には……………

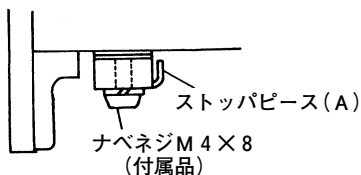


図 8

ベースを取りはずして使用する場合には、付属のネジで左図のようにストッパピース (A) を固定して使用します。(図 8)

4. 打ち込み力不足の場合には……………

継ぎコードが細くて長い場合には、打ち込み力が低下することがあります。

このような場合には継ぎコードを太いもの（導体公称断面積2mm²のもの）とし、長さをできるだけ短くしてください。それでも打ち込み力が不足の場合は、コンセントに直接さし込みプラグをさし込んでご使用ください。

- 注** • 本機は構造上、昇圧器などのトランス類を使用しても打ち込み力は増加しませんのでご注意ください。

5. ステーブルの取扱い方……………

- 注** • ステーブルの梱包箱、ステーブル単体いずれの場合も扱いをていねいに行なってください。落としますと連結部が切れます。また、そのままの状態で使用するとステーブル送り不良により、空打ち、ステーブルつまりなどが発生するため、使用しないでください。
- ステーブルは、長時間外気や直射日光にさらさないでください。さびの発生や、連結部に不具合が生じる場合があるので、使用しないときはステーブル梱包箱などに入れてください。

保守・点検

警 告

- ステープルづまりを直すときや点検・手入れの際は、さし込みプラグを電源から抜いて、ステープルを全部抜き取ってください。

1. 各部取付けネジの点検……………

各部取付けネジでゆるんでいるところがないか、定期的に点検してください。ゆるんでいるところがある場合は、締めなおしてください。ゆるんだままお使いになると、けがなど事故の原因になります。

2. マガジンの点検……………

マガジンをときどき掃除してください。
中にたまったごみ、木くずなどを取り除いてください。

3. 製品や付属品の保管……………

使用しない製品や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

- | | | | |
|---|--|---|---------------------|
| { | <ul style="list-style-type: none">○ お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所○ 軒先など雨がかったり、湿気のある場所○ 温度が急変する場所○ 直射日光の当たる場所○ 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所 | } | このような場所
には保管しない。 |
|---|--|---|---------------------|

ご修理のときは

この機体は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自分で修理をなさらないで買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

ご不明のときは、裏表紙の営業拠点にご相談ください。

その他、部品ご入用の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

メ モ

メ ㊦

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(No.)などを下欄にメモしておかれまして、修理を依頼される時便利です。

お買い上げ日	年	月	日	販売店
製造番号(No.)				電話番号

- 日立工機電動工具センターにご用命のときは、下記の営業拠点にお問い合わせください。

● 全国営業拠点

営業本部	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号(品川インターシティA棟)	☎(03) 5783-0626(代)
北海道支店	〒060-0003	札幌市中央区北三条西四丁目(日生ビル)	☎(011) 271-4751(代)
東北支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東三丁目3番36号	☎(022) 288-8676(代)
東京支店	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号(品川インターシティA棟)	☎(03) 5783-0629(代)
中部支店	〒460-0008	名古屋市中区栄三丁目7番13号(コスモ栄ビル)	☎(052) 262-3811(代)
北陸支店	〒920-0058	金沢市示野中町一丁目163番	☎(076) 263-4311(代)
関西支店	〒530-0001	大阪市北区梅田二丁目6番20号(スノークリスタル)	☎(06) 4796-8451(代)
中国支店	〒730-0011	広島市中区基町11番13号(第一生命ビル)	☎(082) 228-0537(代)
四国支店	〒761-0113	高松市屋島西町字百石1981	☎(087) 841-6191(代)
九州支店	〒813-0062	福岡市東区松島四丁目8番5号	☎(092) 621-5772(代)

- 電動工具ご相談窓口 — お買物相談などお気軽にお電話ください。

お客様相談センター 0120-20 8822 (無料)

※携帯電話からはご利用になれません。(土・日・祝日を除く 午前9:00～午後5:00)

電動工具ホームページ — <http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/>

日立工機株式会社